

2024年7月22日作成

第1.0版

当院で診療を受けられた患者さん・ご家族様へ  
臨床研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、普段の診療で得られた試料・情報を使用させていただくものです。この研究のために、新たに診察や検査などを行うことはありません。以下の試料・情報を研究に用いられたいとお考えの患者さんまたはご家族の方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた患者さんの試料・情報は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

薬剤性過敏症症候群におけるヒトヘルペスウイルスの増殖・再活性化機構の研究

1. 対象となる患者さん

2008年1月～変更申請承認日の間に当院で薬疹の治療を受けられた患者さん

2. 研究責任者

奈良県立医科大学附属病院 皮膚科 浅田 秀夫

3. 研究の目的と意義

薬剤性過敏症症候群（DIHS）は高熱と臓器障害を伴う重症薬疹の一つです。ヒトヘルペスウイルス科のウイルスの再活性化を生じ、症状の再燃や重症化と関連することが知られています。これまでに当科では血清中のタンパク質の一つである TARC が、ヘルペスウイルス再活性化に関わっている可能性を見出しました。しかし、このメカニズムについては、いまだ不明な点が多いです。この研究は、ヘルペスウイルス再活性化のメカニズムを解明し、DIHSの予防や治療に役立てることを目的としています。

4. 研究の方法

健常人およびDIHSの既往を有する患者さんの末梢血から単核球を分離、調整し、血清中のタンパク質などを加え、さらにヘルペスウイルスを感染させます。加えたタンパク質がヘルペスウイルスの増殖に及ぼす影響を検討します。診療時に採取した血液の残りを利用します。

カルテに記載されている、年齢、性別、基礎疾患、原因薬剤、血液検査結果、臨床経過、合併症、治療内容を抽出します。

## 5. 使用する試料・情報

生体試料：血液

診療情報：年齢、性別、基礎疾患、原因薬剤、血液検査結果、臨床経過、合併症、治療内容

## 6. 試料・情報の管理責任者

奈良県立医科大学附属病院 皮膚科 浅田 秀夫

## 7. 外部機関への情報等の提供

この研究で使用する試料・情報を以下の機関に提供します。提供する際は、患者さんのお名前等は削除し、個人を直接特定できないようにします。

機関名：神戸大学大学院・臨床ウイルス学分野

研究責任者：臨床ウイルス学分野 森 康子

提供方法：郵送・宅配、電子的配信

## 8. 研究期間

研究機関長の実施許可日～2029年3月31日

## 9. 個人情報の取り扱い

対象となる患者さんの個人情報は厳重に管理し、利用する情報等からはお名前や住所等、個人を特定できる情報は削除し、研究番号に置き換えて使用します。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公表しません。

## 10. お問い合わせ先

奈良県立医科大学附属病院 皮膚科 浅田 秀夫

住所：奈良県橿原市四条町 840 番地

電話：0744-22-3051 （内線 3437）